



写真編

いちごいちえ 会とちぎ国体
第77回 国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022



EXECUTIVE COMMITTEE
GENERAL MEETING
STANDING COMMITTEE
EXPERT COMMITTEE

実行委員会総会・常任委員会・専門委員会



EXECUTIVE COMMITTEE
GENERAL MEETING
STANDING COMMITTEE
EXPERT COMMITTEE

いちご一会とちぎ国体那須町開催の円滑な運営を目指して

令和元年8月20日、いちご一会とちぎ国体那須町実行委員会を設立しました。42年ぶりに開催される栃木県での国体、那須町では初めて開催する競技会の成功に向け、那須町での準備が本格的にスタートしました。



令和元年7月25日、町実行委員会設立発起人会を開催





常任委員会



実行委員の皆さん



平山幸宏町長あいさつ



活発な意見を交わす専門委員



総務企画専門委員会



競技式典専門委員会



宿泊衛生専門委員会



輸送交通専門委員会

いちご一会とちぎ国体自転車競技リハーサル大会 (第56回全国都道府県対抗自転車競技大会)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止、大会に関わる全ての方の安全を第一に、栃木県自転車競技連盟と宇都宮市（共催市）で協議した結果、令和3年8月11日に大会の中止を決定しました。

栃木国体 プレ大会3競技中止 トライアスロンは無観客

県と宇都宮市など3市町は11日までに、来月開催予定だった4競技の府県対抗競技大会（3～5日）として那須町内の特設コースと宇都宮競輪場で、トライアスロンは無観客開催にすることを発表した。新型コロナウイルス感染拡大を受け、トライアスロンは、トライアスロンが中止。トライアスロンが無観客開催となる。リハーサル大会は持ち回りの国内主要大会を充てて開催予定だった。自転車は「第56回全国都道府県対抗自転車競技大会」をリハーサル大会に位置づけて、千葉市の稲毛ヨ

県と宇都宮市など3市町は11日までに、来月開催予定だった4競技の府県対抗競技大会（3～5日）として那須町内の特設コースと宇都宮競輪場で、トライアスロンは無観客開催にすることを発表した。新型コロナウイルス感染拡大を受け、トライアスロンは、トライアスロンが中止。トライアスロンが無観客開催となる。リハーサル大会は持ち回りの国内主要大会を充てて開催予定だった。自転車は「第56回全国都道府県対抗自転車競技大会」をリハーサル大会に位置づけて、千葉市の稲毛ヨ

ットハーバーで開催される予定だった。トライアスロンは「第4回全国高校選手権」（11、12日）として那須塩原市の戸田調整池周辺特設コースで行われるが、無観客開催に変更された。（青木友里、宇留野有貴、野中美穂）
下野新聞令和3年8月12日付より

今秋三重国体、中止で調整 本県大会準備に影響 感染対策など検証できず

三重県で今秋開催を予定していた国民体育大会が新型コロナウイルスの感染拡大で中止される方向で調整に入った。2022年10月に「いちご一会とちぎ国体」を控える本県も対応を迫られている。運営面でのコロナ対策が十分に検証できなくなり、準備に大きな支障も出そうだ。栃木国体での天皇・皇后杯獲得に向け取り組みできた競技力向上への影響も少なくない。

三重国体は9月25日に開幕を予定していた。「願わくば、コロナ対策」

県は当初、三重国体に職員を派遣し運営ノウハウを蓄積、栃木国体時に指揮監督を担ってもらう計画していた。選手と観客の動線などコロナ対策も視察し、課題を本番に生かす考えだったという。

県は今後、三重県が準備していたコロナ対策や各競技の大会などを参考に、運営方法を詰めていく方針。

たかどろかが確認できない。県教委スポーツ振興課の角田正史競技力向上対策室長（52）は戸惑いを口にした。

三重国体は500人近くの本県選手が出場する見通しだった。県スポーツ協会の荒川高志事務局長（63）は「経験値を積み、選手にとって難しい状況に危機感。もう一度強化プランを組み直さないといけない」と苦しい胸の内を明かした。（斎藤章人、伊藤慧）

下野新聞令和3年8月24日付より



PR AND
ENLIGHTENMENT
ACTIVITIES

広報啓発活動

開催準備編

競技編

資料編



100日前事業「国体コースを走ろう!」

町内各所やイベント会場とちぎ国体那須町開催をPR

とちぎ国体那須町開催を広く町民の皆さんに周知するため、様々な事業を計画し、啓発品の配布やPR活動を行いました。

また、那須町で開催する競技への理解を深めてもらうため、競技体験事業を実施しました。



500日前事業「カウントダウンボード除幕式」



600日前事業「国体放送」



PR AND
ENLIGHTENMENT
ACTIVITIES

広報啓発活動



高久小学校にてあいさつ運動（オールとちぎプロジェクト）



町レクリエーション大会にてPR



那須町PRポスターコンクール表彰式



那須町PRポスターコンクール選考会



県主催開催3年前イベント（PRブース出展）



県主催開催3年前イベント（自転車競技体験）



町栄養士が「国体応援給食」動画に出演



県主催県民の日イベント



黒田原小学校での「国体応援給食」



400日前事業「国体応援給食」メニュー



「国体コースを走ろう！」イベント



県主催100日前イベント



県主催県民の日イベント

200日前事業「歓迎動画」公開
宇都宮ブリッツェン増田成幸選手（東京2020オリンピック自転車男子ロードレース日本代表）出演

街頭啓発活動



御神火祭での啓発品配布



栃木県自転車条例啓発活動



BONFIRE
EVENT

炬火イベント

BONFIRE
EVENT



町内各所で採火した火がひとつにまとまり“那須町の火”が誕生

炬火とはオリンピックの聖火にあたるもので、各市町で誕生した炬火は、総合開会式で1つになり、いちご一会とちぎ国体の炬火となりました。

那須町では、「御神火祭」で採火した「無病息災と豊作を祈る御神火 湯本の火」、東京2020オリンピック聖火リレーの栃木県2日目のスタート地点となった遊行庵で採火した「柳と桜が出迎える歴史と文化が薫る町 芦野の火」、道の駅東山道伊王野で採火した「東山道 寒さ絶え鎌倉殿のそばへいざ参らん義経の道 伊王野の火」、そしてなすっこ祭りで採火した「駆け抜けよ！支える声援力に変えて！ 黒田原の火」、さらに町内すべての小学校で実施した那須町版放課後子ども教室事業（アナザースクール）の講座で採火した「未来へつなぐ子どもたちの火」を1つにして“那須町の炬火”が誕生しました。

那須町炬火名「那須の空 夢はばたいて 九尾の火」

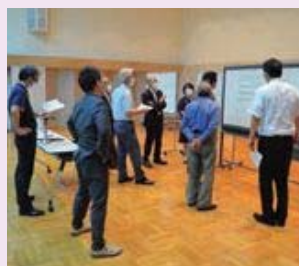
那須町炬火集火式



那須町の炬火誕生の瞬間



炬火名表彰



炬火名審査会



那須町開催記念打上花火

採火イベント



御神火祭（令和4年5月29日）



芦野遊行庵（令和4年6月21日）



なすっこ祭り（令和4年8月15日）



道の駅東山道伊王野（令和4年7月10日）



高久小学校



黒田原小学校



東陽小学校



田代友愛小学校



学びの森小学校



那須高原小学校



A LOT OF
FLOWERS
MOVEMENT

花いっぱい運動



A LOT OF
FLOWERS
MOVEMENT

町民総ぐるみで育てた花でお出迎え

町内の保育園、小中学校、事業所・団体の皆さんにご協力をいただき、花苗の定植、育苗をしました。大会当日には応援メッセージ入りのプランターをコース沿線と会場周辺に設置し、たくさんのお花でおもてなしました。



小学校での定植・育苗の様子



保育園での定植・育苗の様子



事業所・団体



公民館花いっぱい運動



大会当日



CLEANING
ACTIVITIES

クリーンアップ運動



CLEANING
ACTIVITIES

きれいな町で那須を訪れる方々を歓迎

那須町特設ロードレース・コース沿線とその周辺のゴミ拾いを行いました。

1周17.6kmの大会コースを5つの拠点に分かれて、自治会や各種団体、ボランティアのみなさんと実施しました。述べ1,024人の方が参加しました。



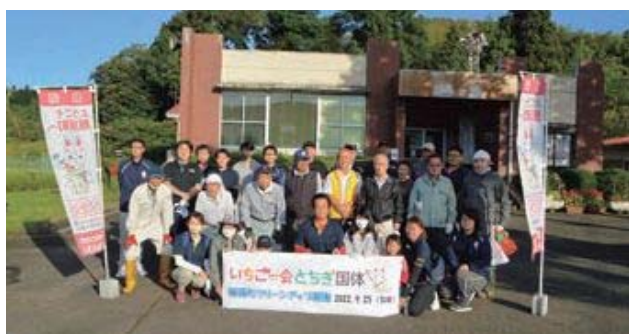
役場周辺



下川周辺



豊岡周辺



芦野支所周辺



クリーンステーション周辺



高久駅周辺 (コース外)





W E L C O M E
D E C O R A T I O N

歓迎装飾



W E L C O M E
D E C O R A T I O N

花壇装飾及び歓迎看板設置（那須IC近く）

町内各所や駅に歓迎の想いを込めて

全国から訪れる選手・監督や大会関係者をおもてなしの心でお迎えするため、主要駅（那須塩原駅と黒磯駅）や競技会場周辺等に歓迎装飾を施しました。町内は歓迎ムードに彩られ、開催機運の向上が図られました。



街頭フラッグの設置



那須塩原駅にバナーの設置（那須塩原市と大田原市と共同）



エレベーターラッピング（那須町役場1階）



式典会場をフラワーボードで装飾（那須町文化センター）



那須町中央運動公園入口看板



町内全小中学校及び保育園等に横断幕を設置



那須分岐交差点にバナーを設置



玄関マットでお出迎え



黒田原駅の装飾（横断幕・花プランター）



歓迎のぼり旗の設置



黒磯駅の装飾（カウンタダウンボード・バナー）



黒田原駅の装飾（案内看板）



S P O N S E R S H I P

協賛



(左から) 栃酪那須町酪農組合様、酪農とちぎ那須地域酪農組合様、那須野農業協同組合様、平山幸宏町長、お菓子の城那須ハートランド様、那須町建設業安全協議会様



食材提供 (米、美なす、ニラ、椎茸)
〔那須野農業協同組合様〕



花プランター運搬
〔那須町建設業安全協議会様〕



牛乳〔酪農とちぎ那須地域酪農組合様、
栃酪那須町酪農組合様〕



銘菓「御用邸の月」
〔お菓子の城那須ハートランド様〕



競技車両〔トヨタカローラ栃木様〕



保冷車〔栃木県トラック協会塩那支部様〕



横断幕〔本田工務店様〕



集会用テント〔那須町管工事業組合様〕



車両〔しのぶ様〕



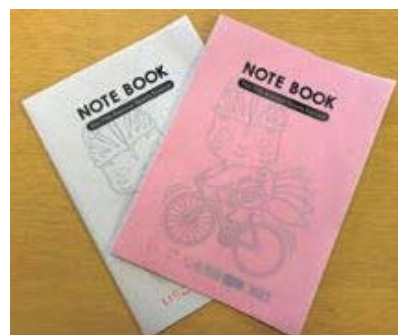
プランター台〔那須町森林組合様〕



那須地域地球温暖化防止対策協議会様



横断幕・オリジナルノート〔砂川印刷様〕





BICYCLE
RACE
(ROAD RACE)

自転車(ロードレース)

【会期】 令和4年10月9日(日)
【会場】 那須町特設ロードレース・コース
那須町スポーツセンター



BICYCLE
RACE
(ROAD RACE)

圧巻のスピードで観客を魅了したロードレース!男女総合成績では悲願の優勝!

自転車競技(ロードレース)は、那須町スポーツセンターをスタート・ゴールとした1周17.6kmの周回コースを女子が3周、成年男子7周、少年男子5周で行われました。

沿道での多くの観客がエールを送るなか、栃木県代表の石原悠希選手(成年男子)は9位となり惜しくも入賞は逃しましたが、トラックレース(宇都宮市開催)との合計得点で競われる女子総合成績では栃木県は2位、男女総合成績では悲願の優勝を果たしました。



女子スターターの平山幸宏町長



女子スタート



女子 新沼杏菜選手(栃木県)



幸福の科学学園チアダンス部による出発式パフォーマンス



競技役員の皆さん



女子スタートの様子



レースの行方を見守る観客





沿道でのあたたかい応援



レースを支える競技車両や競技バイク



女子優勝は池田瑞紀選手（福岡県）



力走の女子新沼杏菜選手（栃木県）



BICYCLE
RACE
(ROAD RACE)

自転車(ロードレース)

【会期】 令和4年10月9日(日)
【会場】 那須町特設ロードレース・コース
那須町スポーツセンター



成年男子スタート



少年男子(栃木県)阿久津仰祐選手(右)、金澤映幸選手(左)



成年男子(栃木県)貝原涼太選手(前)、石原悠希選手(後)



男子スターターは、池澤昇秋町議会議長



成年男子 貝原涼太選手(栃木県)



DEMON
STRATION
SPORTS
AEROBIC

デモスポ・エアロビック

【会期】 令和4年9月11日（日）
【会場】 那須町スポーツセンター



DEMONSTRATION SPORTS AEROBIC

笑顔で息の合った演技を披露し、手拍子と拍手で会場が一体に

県内の参加者約117人（16チーム）が参加し、それぞれの部門で息の合った演技を披露しました。ヒップホップやチアダンスなどジャンルにとらわれない「演技発表部門」、キックやプッシュアップなどエアロビックの規定動作を取り入れた「エンジョイ・チーム部門」で各チームともこの日のために練習を重ねた演技は、観客を魅了し、会場が大いに盛り上がりました。最後には、参加者全員でいちご一会ダンスエアロビックver.を踊り、参加者同士の交流の輪も広がりました。



一般来場者受付



参加者受付



開会式



日本エアロビクス連盟知念かおる理事長あいさつ



那須町長による歓迎のことば



那須町議会議長による来賓代表あいさつ



審判員の紹介



参加者全員での「ウォーミングアップ」





DEMON
STRATION
SPORTS
AEROBIC

デモスポ・エアロビック

演技発表部門



イエローフィッシュ黄な体操



リーベン キント



小川ブッチ



Good Up Dance Circle



HANAZONO チャレンジャーズ



小川キッチン



ukoo HipHop



Aasha Bellydance Studio



ukoo FF



Nene&Yura



お・が・わ



幸福の科学学園高等学校 チアダンス部 GOLDEN GRIFFINS



DEMON
STRATION
SPORTS
AEROBIC

デモスポ・エアロビック



演技発表部門表彰 MVP 賞は幸福の科学学園高等学校チアダンス部



知念理事長による MVP 賞（演技発表部門）及び最優秀賞（エンジョイ・チーム部門）の授与



近藤理事長による栃木県エアロビック連盟賞の授与



栃木県エアロビック連盟賞受賞の3チーム



エンジョイ・チーム部門表彰 最優秀賞はひまわり



栃木県エアロビク連盟近藤忠雄理事長による講評



牛乳の無料ふるまい



栃木県立県北産業技術専門学校製作のかき氷自転車

いちご二会のレガシー とちぎ国体・障スポ閉幕

③

道路脇をびっしりと埋めた児童が「頑張れ」と夢中で声援を送る。「僕なんか1周も走れない」。6年の男児は目を丸くした。那須町で10月9日に行われた国体自転車ロードレース競技には、町の全児童生徒が駆けつけ、高齢者施設のお年寄りも沿道で旗を振った。総勢約1万人の人口。地元の魅力が詰めたおもてなし広場もにぎわった。

1日だけの競技のために、町は17・6キロのコース沿線を全戸訪問し交通規制に理解を求め、町民と2度ごみ拾いもして選手を迎えた。「子どもたちに何としても見せてあげたかった。国体が地域を一つにした」。町実行委員会の高藤建事務局長（54）は振り返る。

運営担った自治体

全市町で競技開催を計画したとちぎ国体。観客やボランティアなどさまざまな形で住民が参加した。その体験は、地域に一体感や新たな価値も生み出した。スポーツクライミング（SC）を実施した壬生町。東京五輪に出場した本県の檜崎智亜ら全国の強豪の妙技に、会場は熱気に包まれた。「コロナ禍でも大成功と言えると思う」。町国体推進室で運営に当たった栗原徹さん（44）は喜ぶ。SCの大会を町内で開くなど、町民への浸透を図ってきた。運営には壬生高が全面協力。会場で解説を務めた世界的クライマー平山

貴重な機会、手放した町も

ユージさんは「全国の郷土愛がある。国体は競技普及にとっても非常に重要」と盛り上がりを楽しんだ。ロードレースは地元那須地域にプロチームがあり、発展の素地もある。「サイクルツーリズムなど観光の新たな魅力につなげたい」と高藤さん。東京五輪で正式採用となったSCは、注目度も急上昇。栗原さんは「町民スポーツとして、町を核に本県から全国へ発信したい」と理想を描く。

こうした貴重な機会を手放すことになった自治体もある。市員町のオープンウォータースイミングは、会場の貯水池でアオコが発生し、水質悪化のため本番前日に中止が決まった。「泳げるわけがない」「なぜここを会場に」。選手らを迎

えたのは、不気味な青緑色に染まった水面だった。前代未聞の事態。本県で大会開催の例もない競技を小さな町が担う力があつた



自転車ロードレースを応援する那須町の子どもたち。町を挙げて国体を迎えた＝10月9日午前、那須町寺子乙

競技振興の素地育む

のか、競技関係者の間には疑問の声も上がる。責任の所在も不明確なまま。運営を担当する自治体は、競技とどう向き合うべきなのか。片や国体の意義を体現し、片やスタートラインにも立てなかった。国民スポーツの祭典は、その落差の大きさも際立たせた。（藤井達哉）